

業務用機器を、使いのお客様へ



換気を忘れない

ガス機器をお使いになるときは、必ず換気扇を回すか、換気装置を動かして、換気してください。うっかり換気を忘ると、一酸化炭素による中毒や死亡事故につながる場合があります。



伝熱火災にご用心

壁との離隔距離は十分お取りください。壁の表面がステンレスやタイル張りでも、下地が木材の場合は、伝熱火災を起こすことがあります。



給気口は絶対ふさがない

普段から、フード内の清掃を心がけましょう。ダクト内や換気扇の油滴やホコリはダクト火災の原因になります。

・ガス臭いなど危険を感じた時には、お客様すぐに安全な場所へ誘導してください。
・特定地下街等及び特定地下室等ではガス漏れ警報設備が、超高層建物、特定大規模建物及び中圧の設備を有する建物ではガス警報器または自動ガスしゃ断装置の設置が、法令で義務付けられています。
・設備は定期的に点検を行ってください。また警報装置が作動した場合は、青梅ガス、消防署へ速やかに連絡を行ってください。

地震のときは、身の安全を最優先に。

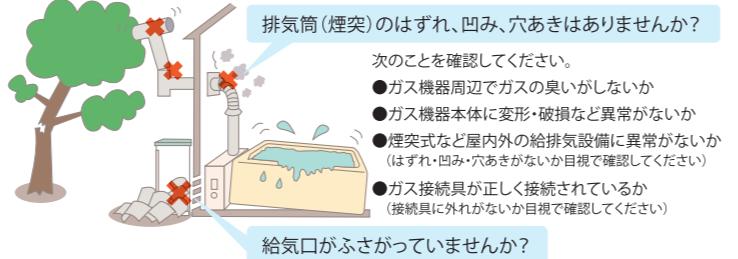
まずは身の安全を確保しましょう。



揺れがおさまったら
ガスの火を消してください。



●地震のあと、ガスをふたたび使うとき

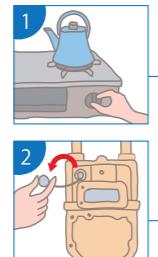


ガスが出ないときは、ガスマーターを確認。

ガスマーターには、次のような場合に安全装置がはたらいて自動的にガスを止める機能があります。安全装置がはたらいた場合、表示ランプ(赤)が点滅します。

- 大きな地震が発生した場合
 - 多量にガスが漏れた場合
 - ガスの圧力が所定の値より低くなった場合
 - 機器を長時間使用した場合*
- *お湯の沸かしすぎや鍋がこげるのを防止するものではありません。

ガス臭い場合は復帰操作を行わず、
すぐに青梅ガスへ連絡してください。



器具栓を閉じるか、運転スイッチを切り、すべてのガス機器を止めてください。
屋外の機器も忘れずに。
使っていないガス栓は閉まっていることを確認してください。このときメーターガス栓は閉めないでください。



復帰ボタンを奥までしっかりと押して、表示ランプが点灯したらすぐに手を離す。
復帰ボタンが元に戻り、表示ランプが再点滅します。その後、キャップを元に戻しておきます。
約3分間お待ちください。
この間ガス漏れがないか確認していますので、ガスを使わないでください。3分経過後に、再度ガスマーターをご確認頂き、表示ランプの点滅が消えいれば、ガスが使えます。

※3分経過後も、ガスが止まつたままで表示ランプが点滅している場合は、ガスマーターの止め忘れやガス漏れが考えられますので、もう一度ガス栓の閉め忘れやガスマーターの止め忘れがないか確認してください。
※正常に復帰しない場合や、不明な点がある場合は青梅ガスへ連絡してください。

ガス臭い場合はすぐに連絡。

ガス警報器が作動したり
ガス臭いと感じたときは
すぐに青梅ガスへ
連絡してください。



●ガス臭いと感じた時の手順

●火気は絶対使用しないでください。



●着火源となる換気扇、電灯などのスイッチに絶対手を触れないでください。



▶窓や戸を開けましょう



すぐに青梅ガスへ連絡してください!

お名前 ご住所 ご近所の目標 その場の状況

青梅ガス株式会社

<https://www.omegas.co.jp/>

〒198-0024 青梅市新町8-8-13

【ガス漏れなどの緊急のご連絡】

0428-31-0909

(365日24時間 保安体制)

【その他一般のお問い合わせ】

0428-31-8111

電話受付時間：9:00～17:30 (日・祝日を除く)

2022.10

青梅ガス株式会社

ガス安全ガイド

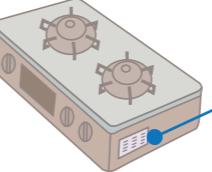
～安心してガスをお使いいただくために～



ご使用前にガスの種類を確認。

青梅ガスがお届けしているガスは、
都市ガス「13A」です。

空気より軽く一酸化炭素は
含まれてありません。



型式
都市ガス用13A
○○○kW(○○○kcal/h)
201704-0001
○○○株式会社

適応するガスの種類
ガス消費量
製造年月・製造番号
メーカー名

新しくガス機器をお買い求めになるときのほか、今までご使用になら
れていたガス機器をお使いになるときも、ガスの種類とあって
いるか、必ず確認してください。ガ
スの種類があつてない場合には
調整作業(有償)が必要になります。

ガスの種類とあってないと、正常な燃焼をせず、
不完全燃焼による一酸化炭素中毒または異常燃焼
による火災の原因となるおそれがあります。

ガス機器を接続するときは“形”と“大きさ”を確認。

接続器具をガス機器・ガス栓へつなぐときは形状やサイズを確認し、それぞれにあったものを使用してください。

ガス機器

スリムプラグタイプ
器具用プラグ
ホースエンドタイプ

接続具
ガスコード
器具用プラグ
ホースエンドタイプ

ガス栓

コンセントガス栓
ゴム管用ソケット
ソフトコード(ゴム管)
ホースガス栓

※ゴム管止めを必ずはめてください。

ご注意

形状やサイズがあつてないものを接続した場合、接続箇所
からガスが漏れ、着火・爆発の原因となるおそれがあります。

ガス栓への取り付け方
(コンセントガス栓)

ソケットに無理な力がかかるないよう適切な種類を選んでください。
L型



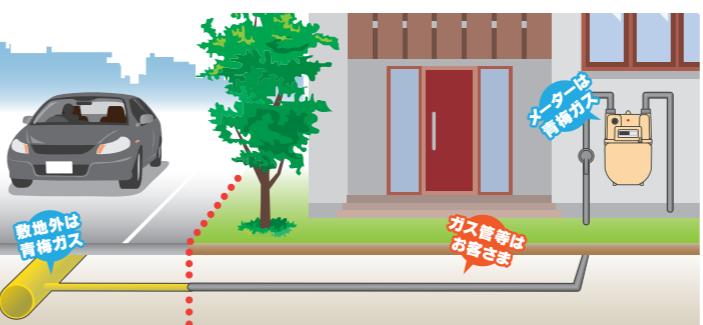
（ホースガス栓）

ゴム管は赤い線までキッチリ差し込んでください。

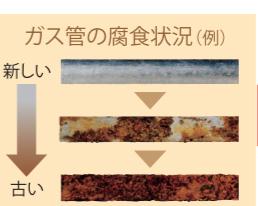


ガス機器とガス栓をつなぐ場合は、接続具を必ずガス機器側
からつないでください。

敷地内のガス設備は、お客様の所有物。



土の中に埋められている白ガス管(亜鉛メッキ鋼管)は、
交換しましょう。



交換

ポリエチレン管

ポリエチレン被覆鋼管

硬質塩化ビニル被覆鋼管

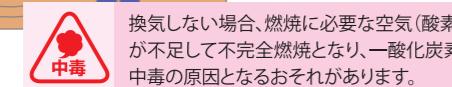
ポイント

お取り替えをご検討いただきたいのは、お客様の所有物となる敷地内の
ガス管です。お取り替えは有償で行わせて頂きます。

ガスを使うときは“換気”。



換気扇を回すか、窓を開けましょう。

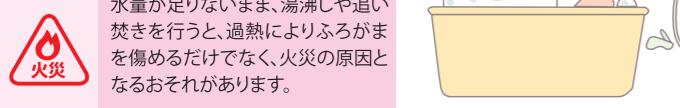


換気しない場合、燃焼に必要な空気(酸素)が不足して不完全燃焼となり、一酸化炭素中毒の原因となるおそれがあります。

- 小型湯沸器は安全装置が付いていても必ず換気をしましょう。
- コンロや小型湯沸器が使用中に止まつたら、再点火を繰り返さず点検・修理(有償)をご依頼ください。

空だき注意。沸かす前に水栓確認。

追い焚きや湯沸しの際は、水量が十分あることを確認しましょう。



水量が足りないまま、湯沸しや追い焚きを行うと、過熱によりふろがまを傷めるだけでなく、火災の原因となるおそれがあります。

点火にくくなつた場合は無理に点火せず、点検を依頼しましょう。

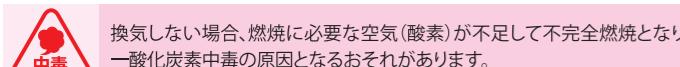


未燃ガスに異常着火し、ガス機器を損傷するおそれがあります。

- 点火がうまく行わないと、点火操作により放出される少量のガスが、一時的に機器内にたまります。
- そのまま繰り返し操作を行うと未燃ガスが徐々にたまるため、点火された際に異常着火し、衝撃で機器が変形するおそれがあります。
- ふろがまが水につかると点火にくくなる場合もありますので、おふろの排水口は、こまめにお掃除してください。

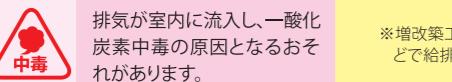
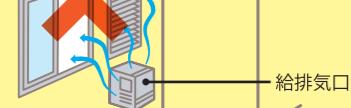
暖房中もときどき“換気”。

1時間に1～2回程度、新鮮な空気に入れ替えましょう。



換気しない場合、燃焼に必要な空気(酸素)が不足して不完全燃焼となり、一酸化炭素中毒の原因となるおそれがあります。

ガス機器使用中は、給排気口付近の窓を閉めましょう。



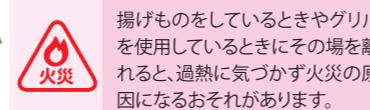
排気が室内に流入し、一酸化炭素中毒の原因となるおそれがあります。

- 燃焼した排気を直接屋外へ排出するガス機器や、屋内機器の排気口付近にある建物開口部(窓、換気口など)から排気が室内に入流し、不快においがしたり気分が悪くなるおそれがあります。
- 設置状況によっては、ガス機器等の移設が必要な場合があります。

調理中はガス機器から目を離さない。



別の用事がある場合は、いったん火を止めましょう。



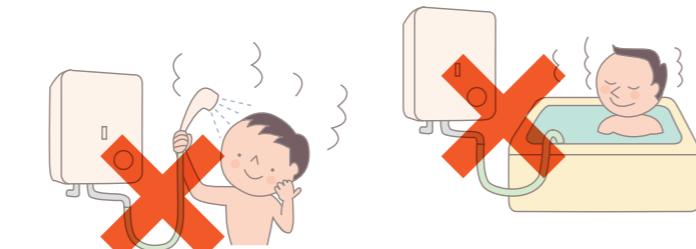
揚げものをしているときやグリルを使用しているときにその場を離れると、過熱に気づかず火災の原因になるおそれがあります。

ポイント

- 安全装置が付いていても、自分の目で確認することが大切です。
- 揚げもの調理は、天ぷら油過熱防止装置(Siセンサー)の付いている側で行ってください。
- コンロの火が着衣に着火しないようご注意ください。
- メーカー純正品以外の部品(ガスコンロ用省エネリングなど)の使用は、不完全燃焼による一酸化炭素中毒を起こす原因となる場合がありますので、注意しましょう。

小型湯沸器をお持ちの場合のルール。

小型湯沸器は、ふろ・洗濯機へのお湯はり、シャワーや洗髪に使わないでください。

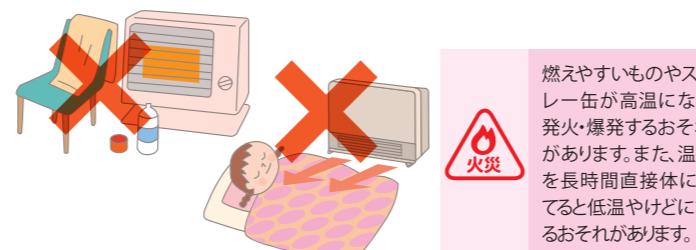


ポイント

- 小型湯沸器は燃焼に必要な空気を多く使います。
- 長時間連続使用すると、換気を行っても燃焼に必要な空気が不足するおそれがありますので、絶対にお止めください。

暖房機器は十分な距離をとって使う。

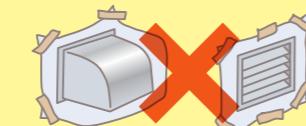
衣類などの燃えやすいものやスプレー缶を近くに置かないでください。温風を長時間直接体にあてないでください。



燃えやすいものやスプレー缶が高温になり発火・爆発するおそれがあります。また、温風を長時間直接体にあてると低温やけどになります。

工事を行う場合は、機器の使用にご注意ください。

ガス機器・給排気設備をビニールシートなどで覆った場合はガス機器を使用しないでください。



※増改築工事などで排気筒を取り外したり、塗装工事などで給排気設備を覆われることがあります。

排気が屋外に排出されず、一酸化炭素中毒の原因となるおそれがあります。

ポイント

- 設置状況によっては、ガス機器等の移設が必要な場合があります。

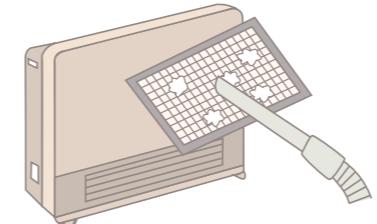
ガス機器の点検

ガス機器は定期的にお手入れと点検を。

取扱説明書をよく読み、安全な使用や日常管理の方法を確認しましょう。ガス機器や給排気設備は、ときどき清掃、点検しましょう。

暖房機器

機器背面にあるエアフィルターを定期的にお掃除しましょう。



テーブルコンロ

バーナーが詰まりしないよう、時々器具ブラシなどでお掃除しましょう。



小型湯沸器

小型湯沸器の上部(防熱板の下)に汚れや詰まりがないかチェックしましょう。汚れや詰まりがある場合や使用中に火が消えてしまう場合は、使用を中止し、点検・修理(有償)をご依頼ください。



排気筒(煙突)

排気筒(煙突)内に鳥が巣を作っていますか？

地震・台風・強風・大雨・大雪のあとでは、排気筒(煙突)のはずれや、壊れがないかどうか確認してください。

給気口がふさがっていますか？

※ふろがま・湯沸器を屋内設置する工事は国で定められた資格が必要です。工事前によくご確認ください。

排気筒(煙突)のはずれ、穴あき、詰まりはありませんか？



ポイント

- 異常を見つけた場合は、ただちに使用を中止し、点検・修理(有償)をご依頼ください。

- 隠れ部に設置されている排気筒(煙突)も点検してください。腐食により穴が開いたりはすれたりすると、排気が室内に入り込み、一酸化炭素中毒の原因となるおそれがあります。

より安全性能の高い機器への取り替えをおすすめします。

Siセンサーコンロ

現在製造されているコンロは、すべてのバーナーに、煮こぼれや点火ミスなどで火が消えたときにガスをストップする立ち消え安全装置、天ぷら油の温度が約250℃になると、ガスを止め火災を防止する調理油過熱防止装置、消し忘れ消火、早切れ防止機能など、安全便利機能を搭載しています。

Siセンサーコンロ



小型湯沸器

ほこりによる熱交換器の詰まりなどがあったとき、炎の異常を検知し、自動的にガスを止めます。

※不完全燃焼防止装置付の機器でも、お使いになるときは必ず換気してください。



屋外設置式ガス機器

機器を屋外に設置するタイプのガス機器で、排気筒(煙突)などの給排気設備が不要で安全な機器です。



ガス・CO警報器の設置をおすすめします

万一ガス漏れや不完全燃焼による一酸化炭素が発生した場合、ランプと警報音でお知らせします。24時間ガス漏れやCO発生を監視する暮らしの見張り番です。また、火災が発生したときに、お知らせする機能のついた警報器もあります。



ポイント

- 設置状況によっては、ガス機器等の移設が必要な場合があります。

密閉式ガス機器

密閉式ガス機器は、本体を屋内に設置しますが、給排気筒で空気を屋外から取り入れ、排気も屋外へ排出する、屋内の空気を使用しない安全な機器です。ファンで強制的な給排気を行うFF方式と自然な給排気を行うBF方式があります。



交換期限(5年)がすぎる前に、お取り替えが必要です。ガスの種類によってはガス警報器とCO警報器をそれぞれ設置する必要があります。